

「日大事件」と医療法人「錦秀会」前理事長

写真は朝日 8 日朝刊掲載の日大板橋病院の建て替えをめぐる背任容疑事件の構図と田中英寿・日大理事長、理事の井ノ口忠男容疑者、そして医療法人「錦秀会」前理事長の藪本雅巳容疑者。マンモス大の暗部がまた明るみに出たが、大阪の政治を考えるうえで、医療法人前理事長にも注目したい。毎日 8 日朝刊を途中から紹介する。



藪本前理事長が率いた錦秀会グループは、関西を中心に系列の 12 医療機関や介護施設、専門学校などを運営し、グループ全体のベッド数は約 6000 床で西日本で最大規模とされる。(写真は私が昨日撮影した、大阪市住吉区の阪和記念病院前にある阪和記念会館)



関係者によると、約 60 年前に藪本前理事長の父親が大阪市内に開設した個人医院が始まり。救急病院として地域の生活困窮者を受け入れて業績を伸ばし、1995 年に藪本前理事長が引き継いだ。近年は外国人観光客増加に合わせ、最先端医療や検診と観光を組み合わせた「医療ツーリズム」に乗り出して成長を続けた。こうした過程で政治家に人脈を広げ、組織力を背景に大阪の行政や政治にも影響力を示していったようだ。藪本前理事長は安倍晋三元首相と親密な間柄でも知られる。本紙の「首相日々」によると、藪本前理事長は 2017 年から大型連休や夏休みのたびに山梨県内の安倍元首相の別荘を訪れ、友人らとゴルフをしている。関係者によると、グループの入社式には新入社員に向けた安倍氏のビデオレターが送られてきた年もあったという。

新型コロナウイルス対策では大阪で存在感を發揮した。20 月 6 月、錦秀会が運営する「阪和第二病院」(大阪市住吉区)が、府内の民間病院で初めてコロナ専門病院となった。吉村洋文大阪府知事は記者団に、藪本前理事長に相談する中で手を挙げてもらったと経緯を明かした。府関係者は「専門病院は藪本前理事長の鶴の一声で実現した。良くも悪くも理事長のワンマングループ」と評する。

藪本前理事長は大阪の繁華街「北新地」で 3 本の指に入る上客として知られ、一晩で 1000 万円を使うこともあったという。前理事長を知る元社員は「入社式には政治家や芸能人、スポーツ選手が毎年来ていた。人間関係を周囲にひけらかすのが好きな人だと感じた。前理事長の権力やお金に群がる人がいっぱいいた」と明かした。

なお、医療問題に詳しい中日新聞の安藤明夫編集委員の投稿によると、ベンチャー企業アンジェス創業者の森下竜一・大阪大教授と藪本氏は、「大阪で夜ごと飲み歩く仲間」という。大阪万博に関係する動きもあり、藪本容疑者と大阪の維新政治にも注目したい。

(2021 年 10 月 9 日)